

that 節を伴う知覚動詞構文に関する通時的考察

村岡宗一郎

1. はじめに

現代英語の知覚動詞は (1) のように原形不定詞や現在分詞を補文にとり、直接知覚を表す。その一方で、that 節を伴う知覚動詞構文は間接知覚を表し、直接知覚を表さない。

(1) a. I **saw** him **walk(ing)**. (Subject perceives event directly.) (Verspoor 2000: 215)

b. He **saw that** the chicken had been hit by a car. (He saw it dead by the side of the road but did not witness it being hit). (Singer 2007: 268)

しかし、Haider (2003) などの先行研究では、that 節を伴う知覚動詞が直接知覚を表す可能性を示唆する。本研究では that 節を伴う知覚動詞構文が直接知覚を表す可能性について、統語的・意味的観点から分析し、Haider らの分析の妥当性を検証する。そして、聖書やその他ゲルマン諸語のデータを用いて共時的・通時的に調査を行う。

2. that 節を伴う知覚動詞の意味について

that 節を伴う知覚動詞構文が間接知覚を表す証拠として以下の例がある。直接知覚を表す表現では知覚行為と知覚対象となる事象は同時でなければならないが、間接知覚を表す構文ではそのような制約は課されない。

(2) a. *At 6 o'clock, John **saw** Bill {*leave / leaving*} at 7 o'clock.

b. *I **saw** John {*have been crying / be sleeping*}.

(3) a. Yesterday, I {*saw / heard*} **that** (regrettably) John might walk away today.

b. I **saw that** John {*had been crying / was crossing to the other side*}.

さらに間接知覚を表す知覚動詞構文には以下のように状態的表現や否定辞を伴うことができるが、直接知覚を表す知覚動詞構文では許容されない。

(4) I **see that** {she *knows* Margaret / his leg *was broken* / the girl was (*not*) crying}.

(5) *We **saw** him {*love kelp / be rejected / not cry*}.

これらの言語事実から that 節を伴う知覚動詞構文は直接知覚ではなく間接知覚を表す表現であるとまとめられる。

3. that 節を伴う知覚動詞構文が直接知覚を表す可能性について

that 節を伴う知覚動詞構文が直接知覚を表す可能性について、原川 (1983) は (6) を直接知覚の意味を持つ可能性を示唆する。Haider (2003) もまた (7a) のドイツ語の様に (7b) が直接知覚を表す可能性を示唆する。

(6) a. He (=Father) looked over the report. 'I **see** you got seventy-five in conduct.'

(Allen Wheelis, *How People Change*; 原川 1983: 61)

b. I glanced at the house and I **saw that** the blinds were drawn.

(Somerset Maugham, *Home*; ibid.)

(7) a. Ich **hörte, dass** er sein Büro verließ (indirect or direct perception)

(Haider 2010: 340)

b. I **heard that** he worked in his office. (direct or indirect perception)

(Haider 2003: 126)

Haider (私信) によれば、(8) のように that 節が直接知覚を表す知覚動詞構文と同様に with my own eyes などの副詞句を伴うことができることから、that 節を伴う知覚動詞構文が (7b) のように直接知覚を表すという。

(8) a. With my own eyes I **saw** it {*move / moving*} over the grass.

b. With my own eyes I **saw that** it moved over the grass.

しかし、これらの例において直接知覚を表すのは look などの動詞や with my own eyes であって that 節を伴う知覚動詞構文ではない。また (9) では直接知覚を表す構文に用いることができない完了形や否定辞などが用いられている。さらに、表 1 のように with my own {eyes / ears} 等の表現は間接知覚よりも直接知覚を表す構文に用いられやすい。また、with my own {eyes / ears} 等の表現と that 節が共起した例については、表 2 のように直接知覚を表す知覚動詞構文と共起できない要素が後続している例が多く検出された。

(9) a. I glanced at the dressing-table again, and **saw that** the shoe upon it, once white, now yellow, *had never been worn*.

(Charles Dickens, *Great Expectations*.)

b. With my own eyes I **saw that** the people *did not accept* what had happened in August 1968.

(Mikhail Gorbachev and Zdenek Mlynar. *Conversations with Gorbachev*.)

表 1. コーパスにおける with + Possessive Pronouns + own {eyes / ears} と知覚動詞構文

	that 節		原形不定詞補文		現在分詞補文	
BNC	1 (1 / 0)	14.3%	5 (4 / 1)	71.4%	1 (1 / 0)	14.3%
COCA	15 (15 / 0)	29.4%	20 (16 / 4)	39.2%	16 (16 / 0)	31.4%

表 2. コーパスにおける with + Possessive Pronouns + own {eyes / ears} と共起する that 節に後続する要素

	完了形	進行形	助動詞	状態動詞	否定	その他	合計
BNC	1	0	0	0	0	0	1
COCA	4	1	2	2	4	2	15

これらの調査結果から that 節を伴う知覚動詞構文は間接知覚を表し、直接知覚を表さないとまとめることができる。また Haider (2003) の分析は自身のドイツ語 (= (7a)) の分析に影響を受けたものであると考えられる。

4. that 節を伴う知覚動詞構文が通時的に直接知覚を表していた可能性について

前節では、先行研究により直接知覚を表すと分析されていた that 節を伴う知覚動詞構文について分析したが、英語はドイツ語と近い語族に属していることから、通時的にドイツ語と同様に that 節が直接知覚を表していた可能性がある。この点について、英訳聖書を調査したところ、(10) に示すように古英語の *paet* (that) 節が現代英語の聖書では直接知覚を表す現在分詞として解釈されている。Vikner (1990: 1) および Faarlund (2019: 111-112) によれば、スカンジナビア諸語においても that 節に相当する定形節が直接知覚と間接知覚の両方を表すという。

- (10) a. Ða se Hælend *geseah* *paet* heo weop, (West Saxon Godspell. John 11:33)
b. When Jesus *saw* her *weeping*, (New Revised Standard Version. John 11:33)

同様の現象が (11) の近代英語にも確認される。近代英語の用例について、マーロウの作品を調査した Ando (1976: 519) は現代英語では容認されない物理的な知覚を表す *see* が目的語節をとる例が確認されるという。

- (11) a. The Pharisees *heard that* the people murmured such things concerning him; (Authorized Version. John 7:32)
b. The Pharisees *heard* the crowd *muttering* such things about him, (New Revised Standard Version. John 7:32)

子供の言語獲得に関して Davis and Landau (2021: 134) の調査によれば、統語的・文脈の手がかりが推論の解釈を強く意識させる場合でも、4~6 歳児は that 節を伴う *see* が間接知覚を表す構文として認識せず、直接知覚と間接知覚の区別について理解を示さなかったという。これらの言語事実から英語の that 節を伴う知覚動詞は元来、直接知覚と間接知覚の両方を表していたが、近代英語以降、that 節が (12) や (13) のように間接知覚を表す構文を吸収すると、間接知覚を表すマーカーとして確立した可能性が考えられる。

- (12) a. We han *fe* be Lord *to be* wiþ þee, (Wycliffe Bible Late Version. Genesis 26:28)
b. We *see* plainly *that* the Lord has been with you; (New Revised Standard Version. Genesis 26:28)
(13) a. (for they *heard say*, that they should eate bread there) (Geneva Bible. Genesis 43:2)
b. for they had *heard that* they would dine there. (New Revised Standard Version. Genesis 43:2)

5. まとめ

本研究では、that 節を伴う知覚動詞構文が直接知覚を表す可能性について、統語的・意味的観点から分析を行った。その結果、現代英語ではそのような可能性はないこと、そして Haider (2003) の分析は Haider (2010) のドイツ語の分析に影響を受けている可能性があることを明らかにした。しかし、英語を通時的に見ると、古英語や近代英語における *paet* 節あるいは that 節が直接知覚を表していた可能性がある。同じくゲルマン語族に属するドイツ語やスカンジナビア諸語においても that に相当する定形節が直接知覚を表すことから、英語においても元来 that 節が直接知覚と間接知覚の両方を表していたが、近代英語以降、that 節がその他間接知覚を表す構文を吸収すると、that 節が間接知覚を表すマーカーとして確立したと考えられる。

参考文献 Ando, S. 1978. *A Descriptive Syntax of Christopher Marlowe's Language*. Doctoral Dissertation. Tokyo University. / Davis, E. and B. Landau. 2021. "Seeing vs. Seeing That: Children's Understanding of Direct Perception and Inference Reports." *Experiments in Linguistic Meaning* 1, 125-135. / Faarlund, J. T. 2019. *The Syntax of Mainland Scandinavian*. Oxford: OUP. / Haider, H. 2003. "V-clustering and Clause Union: Causes and Effect." In P. Seuren and G. Kempen eds., *Verb Constructions in German and Dutch*, 91-126. Amsterdam: John Benjamins. / Haider, H. 2010. *The Syntax of German*, Cambridge: CUP. / 原川博義. 1983. 「直接知覚と間接知覚の間—See の場合」『英語青年』129. 2, 61. / Singer, R. 2007. "Events Masquerading as Entities: Pseudorelative Perception Verb Complements in Mawng (Australian) and Romance Languages." In A. Schalley and D. Khlentzos eds., *Mental States Volume 2: Language and Cognitive Structure*, 267-288. Amsterdam: John Benjamins. / Verspoor, M. 2000. "Iconicity in English Complement Constructions." In K. Horie ed., *Complementation: Cognitive and Functional Perspectives*, 199-225. Amsterdam: John Benjamins. / Vikner, S. 1990. "Perception Verbs in the Scandinavian Languages." *Paper Presented at the Workshop on the Logical Form of Perceptual Reports Palazzo Feltrinelli, Gargnano, Italy, September, 1990*. <https://tildeweb.au.dk/au132769/handouts/vikner-ho-1990-perception-verbs.pdf>.